

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の大家族として、支えあえる町づくりを目指し、健やかに（元気で生き生きとして）穏やかに（自然の中でゆったりと、おおらかに）にこやかに（はつらつと自分らしく）寄り添い、敬いあいながら、その人らしく〃・・・生きていけるよう支援している	○	隣近所は勤め人か農業で在宅者は少ない為コミュニケーションが取り難い点もあるが、出来る範囲内で焦らずじっくりと交流したい
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有できるよう日々のミーティングで気づきを話し合い実践に向けて具体的なケアに活かしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には訪問時や家族会等でお伝えしている。地域の方にはホーム見学時等々交流の場で説明したり、折に触れ事業所の実践を伝えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	野菜を近隣から持ってきて頂いたり、畑の耕作について教えて頂いたり交流を深めている。又散歩に出かけると温かい声をかけていただき、回覧板も廻っている。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の花見・文化祭・運動会・地区のおまつり・夜市等々に積極的にでかける。文化祭（地区・中学校）には入居者の作品展示場を設け交流の場とした。又、小学生が遊びに来たり、ボランティアとの交流もしている。自治会にも加入している。	○	悠心彩で運動会を行ったが、次回からは地区の老人会の方との交流を計画している。又保育園児・小学生との交流も深めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	町内介護者の会に出向いたり、認知症ケアの相談 に応じたりしている。公民館単位で認知症キャ バンメイトとして啓発活動の準備中である。又通 所介護ご利用の認知症介護家族の男性を招待し話 しやすい環境の設定等したり逐次相談に応じてい る。実習生の受け入れも行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ホーム長が中心になり、全職員で行 いサービスの質の向上に繋がるよう努めている。 外部評価の結果は管理者会議やミーティングで報 告し改善に向かって実践できるよう努力してい る。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	利用者状況・サービスの実際・問題点等提示してご 検討を頂きアドバイスを受け入れ、サービス向上 に繋げている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	担当窓口の方はもとより、運営推進会議への出席 者を通じ十分な連携が図れる。認知症サポーター づくりについても相談中である。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業をお使いの方もあったのでスタッフ 間でも承知している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	研修参加後は勉強会を開き、周知徹底を図りミー ティング等で研鑽しあっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの固定化はあるも常に交流をしているので顔なじみであり資質向上のために緩やかな交代は考えている。新しいスタッフが入ると紹介し、ご利用者から教わるような工夫はしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修（専門研修）への参加や他の事業所で開かれる研修会への参加やスタッフ間での勉強会を行う。研修参加者の報告会や復命書の閲覧によって全スタッフに伝えている。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域に連絡会があり当初より休みなく参加し、同業者と意見交換を行い質の向上に繋げている。又交換研修も考えている。	○	他の事業所での研修を計画中であり、ご利用者の重度化にも全員が対応できるよう資質向上を目指す。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ自ら楽しめる行事計画等も立てている。又ご入居者の大正琴に魅せられ、購入した者も多数あり休憩中に練習に励んでいる姿も見受けられる。家族会等でご利用者と共に発表の場を計画。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は必要な資格取得の支援をおこなっている。運営者は管理者に委ね、管理者は運営者を信じ、スタッフは管理者と共に、ご利用者の尊厳を大切にし向上心を持って働いている。又、運営者は定期的に、ご利用者と接する機会を持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活状況について十分把握できるように努め、ご本人の要求に応えられるよう関係作りに努める。又ご本人とゆったりした時間を設け傾聴させていただく事も大切。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	そのおかれている状況を傾聴し、相談に応じている。他の事業所の紹介等もさせて頂く。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	先ず、ご本人やご家族の意向や状況を確認し、支援の提案をさせて頂く。FAXやTELでの相談にも柔軟に対応させて頂いている。必要に応じて他のサービスの紹介をさせて頂く。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人ご家族の事業所見学からはじめ、納得の上でご入居されるが、外泊をされながら徐々に慣れて頂く様ご家族と連携をとっている。又一人になれる時間をつくったり、1:1の場面づくりを徐々に展開し不安感が取り除かれるよう配慮している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の思いや、喜怒哀楽を共にし、和やかな関係づくりに配慮している。農作物や漬物づくり等得意分野を生かせる様、教わる場面を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者との日々の暮らしの中で、再発見できる事が多々あり、そこから生まれる情報をご家族に伝え、更に検討し支え合う協力関係も深まる。又、小さな気づきを大切にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外泊や外出を頻繁にされるご家族に感謝しながら、疎遠になりがちなご家族には、電話を依頼してご本人とお話頂き、メール等でご様子をお知らせしご本人ご家族のよりよい関係づくりに配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の来訪があった時は感謝感謝！数人の来訪で同窓会が開け「・・・チャン」と呼び合う姿は何とも言えない喜びを共に味わっている。再度の来訪をお願いしている。	○	知人・友人と継続的に交流ができるよう行事等にも招待し支援したい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	心身の状態や気分でトラブルに繋がる事もあるので、感情の日々時々の変化を注意深く見守っている。活動等を通してご利用者同士の円滑な関係づくりを支援している。	○	ご利用者同士の個性を尊重できるようスタッフ全員が情報連携し、調整役となって支援する。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の医療機関へ移られた方についてはお見舞いに再々訪れるようにしているが、お亡くなりになった方については疎遠になりがちである。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情で思いを推し測ったり、困難な場合は関係者から情報を得る。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族には情報の大切さを伝え、小さな事柄でも伝えて頂くようお願いしているが、ご家族がご本人の暮らしぶりをご存知ない場合もあり、ご本人の様子から又言葉から生活歴が見える場合は、逐次情報の共有化を図り現生活へと活かしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態も含め、一日の生活リズムを把握し、活動の中から小さな行動を見逃さず、できることの発見に努め全体像を見るようにしている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の立場に立ち、ご家族の思いや意見を反映できるような介護計画としている。	○ 勉強会や担当者会議は全員参加の機会を増していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケア関係者の最新情報や気づきを、実情に即した介護計画としている。	○ 変化の兆しに予防的に対応できる介護計画を目指したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、実施担当者が細かく記録しポイントは全体日誌に転記し、情報確認をはかっている。	○	記録を簡素化できるよう検討中である
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	開設後3年が経過しない為、通いや泊まりは対応できない。ご入居者に対しては受診の対応や入院の対応等柔軟に対応している	○	その時々々の要望に応えられるよう支援を考えたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力もあり、消防署から派遣を受けて火災予防をする等公民館活動にも参加したり普段から連携をとっている。	○	地域とさまざまな接点を見出し、協働できるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスは受けているが馴染みの美容院にも出かけている。地区の図書館にもでかける。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターから運営推進会議への参加もあり、関係団体への協働もおこなっている。	○	状況に応じて協力関係を築いていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	僅かな変化を見逃さず、早期発見早期治療をモットーとしており、ご利用者に負担の無いよう配慮し、ご家族の意向に沿って支援している。ご家族によっては、受診に立会い経過状況を主治医と話されている。	○	地域の事情で医療体制の変革に伴い不安材料を残す事の無いよう対応先もご家族と相談している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族と相談の上受診している。	○	改善できるとは言い切れず、リスクを負うこともあるので、ご家族と十分相談の上対応している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職の言葉かけにより、不安が解消されたり、心配事の相談相手にもなっている。常時医療機関との連携もとれている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病状が改善されれば早期に退院に向けてアプローチをしている。混乱は最小限にして、退院されれば回復も早い。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療に依存する重度化や高齢による終末期については、常々ご家族と話し合いを繰り返している。急変時に対応方法について話し合っておりご家族の気持ちの変化やご本人の思いに注意を払い、支援に繋げている。	○	重度化に伴う意志確認書を作成したり、事業所で行う最大のケアもご家族に不安を残さないような説明が必要である。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所のできることを見極め、ご利用者を支えていけるスタッフの力量、連携体制、諸条件を備えて、急変した時のためにチームで慎重に取り組む。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療事業者に委ね、度々お見舞いに行き、関係者に習慣や好みを伝えるなど連携を心がけている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないようにスタッフ研修やミーティングで対応の徹底を図っているが、言葉の内容や語調についても十分配慮するよう心がけている。	○	さりげない言葉の大切さを認識し、自分では気付かぬ事のないようにお互いの意識の向上を図っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご利用者個々にあった言葉かけをする事により会話を引き出したり、複数の選択肢を提示したりして、ご自分で自己決定できるように場面づくりをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時のご本人の気持ちを大切にし、体調への配慮とご本人の希望に添えるよう個別性の支援を柔軟に行っている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で着替えをされる方についてはプライドに配慮しながら、アンバランスにならない様支援させて頂く等、理美容については移動車の利用や馴染みの店に出かける等、又意思表示が困難な方については、スタッフが代弁をする等の支援をさせて頂く。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から新鮮な野菜を持ち帰り食材として調理したり、盛り付け・配膳・片付けをスタッフと共に行い、食事が楽しみの一つになっている。食器の片付けは積極的に行われ活動の一つになっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出時に好みのおやつを自由にお買われる方もあり、喫煙については換気のよい所で、他の方に迷惑がかからぬよう配慮している。ティータイムには好みの物を好みの分量で入れて頂く。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が無いようさりげなく支援している。排便については本人申告によるとチェックできないこともある（各居室のトイレを使用した場合汚染でのチェックができています）	○	各居室のトイレを使用した場合、排泄直後の申告も+が不明の為、細やかな訪室をしてチェックしていく事が大切
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴をされている。時間についてもご本人の希望を聞いて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠の際は、温かい飲み物やおむすび等用意し状況に応じて安眠に繋げている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お米をとぐ等の軽作業から有する能力を発揮できるよう場面作りをし、役割を持って生活をして頂く。梅漬け等の以前培われた事をスタッフが教えて頂く事もある。気晴らしにドライブ等々外出の機会を作り、戸外での食事会も行っている。	○	大正琴を弾かれる方もあり、スタッフが教わるなど和やかな雰囲気をつくり、それぞれの楽しみ場を見つけている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一部の方は自由に使っておられるも、全く管理の出来ない方については、ご家族が持たされていない。</p>	○	<p>ショッピングにでかけできるだけご自分でできる範囲の事をしていただく支援も考えている</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>希望を聞いてイベントに出かけたり、音楽会や地区の行事、お弁当持参のドライブもして気分転換を図っている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節ごとの外出、イベント、希望の場所等実現の機会が多い。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手作りの葉書（年賀状・クリスマスカード・暑中見舞い）を出している。ご家族、友人からの電話もよくかかり、必要に応じて発信依頼の支援もしている。又メールのやり取りもご本人と共に読んでいる。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>趣味(折り紙・歌・編物等)をお持ちの知人が来訪された際は、ご入居者共々ご指導を仰ぐなど気軽にご訪問頂いている。ご家族によっては一日中滞在されご入居者とゆったり過される方もある。来訪者用スペースもあり。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>介護保険指定基準において禁止となる行為は全くなく、頻繁に立ち上がられ転倒の危険性の高い方にはそっと寄り添い共に行動している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>事故報告書（ヒヤリハットを含む）の検討をする必要がある。課題を見つけ、方向性を再認識できるようスタッフ全員に徹底する為纏めたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>今後は、色々な場面を想定して繰り返し自主訓練をしていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>不慮の災害に備えて多方面から協力が得られるような計画を立てておかなければならない。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族の来訪の際に現在の状況を説明しご理解を頂いている。緊急時には電話等で説明をさせていただくことも有り逐次身体状況についてもリスクをお知らせしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期発見・早期治療をモットーとしており、普段の状況から食欲や顔色、様子等の変化は勿論、些細な表情の変化も見逃さないでバイタルチェック・記録をとり、早めの受診をする。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師があたる。処方の変更があった場合は、ボードや記録簿に記入し、全員が把握している。服薬時は、ご本人の前で日付・名前・食前後食間・袋数の確認を行い、飲み込まれるまで確認をする。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い野菜を多く取るようメニューも工夫している。又水分量も制限のない方については十分摂取して頂いている。一人ひとり排便の管理は概ね出来ている。食卓に湯茶を用意しているが、自分で飲める方は少ない。	○	便秘気味な方については特に注意し、イレウス等にならない様引き続き注意深く見守る体制を継続する。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの大切さをスタッフ全員が理解し、誤嚥性肺炎の無いように、義歯洗浄についてもその方の力を見極め支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の摂取量（朝昼夕食・水分・おやつ等）の記録を毎回行っている。個々の好みの温度にも心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のマニュアルを掲示し実行している。食前の手洗いは徹底している。ハンドタオルは1回使用ごとに取り替えている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫・冷凍庫は常に点検している。日付等も記入し在庫には注意をはらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は開放感があり入りやすい。ご入居者と花を活けたり、観葉植物を置いて楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の廊下壁面には、ご入居者の作品も展示し暮らしぶりを来訪者ご家族に見て頂いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に一呼吸できるスペースが用意しており、居間にはソファがあり居眠りをしたり、テレビを見たり、会話が出来たり、自由に過せるコミュニケーションに大切な場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	テレビや箆笥の持ち込みもあり、テーブルやカー ペット等で馴染みのあるものを、ご利用者ご 家族と相談している。ベットはご本人の活動能力 に合わせ位置を変更するなど活動能力に合わせ環 境整備をしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室の換気には特に配慮しトイレは常時換気をし て空気のだよみを防いでいる。又再々訪室して冷 暖房の環境整備には配慮している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下等には手すりをつけ状況に応 じて使用できる環境にある。ランチテラスでは野 菜の処理や漬物をつける場所等として活躍でき る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱、失敗の無いようにそっと見守り、その人ら しく活動できるよう日々工夫している。	○	再々の混乱の為、他の方に迷惑にならない様十分配 慮をしていく事が大切。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	季節によりランチテラスでお茶を飲んだり、日光 浴に出たり、戸外での合唱団、運動会、夕食会、散 歩等々活用の場がある。又広い畑があり、植付け をご入居者と共にし収穫も共に出来、花も植えて 楽しんでいる。	○	ボランティアの方や隣近所に、新鮮な野菜をおす そ分けできるような活躍を期待している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  ○ ご利用者の思いを大切にしたい
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  ○ 食後やお茶の時間を大切にしたい
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ○ マイペースを続けて欲しい
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ○ 黒子ケアに徹する努力はしている
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ○ 犬を連れて出られる方、近所への散歩を楽しまれる方あり
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ○ 毎日のバイタルチェックと状況変化は見逃さない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ○ 柔軟な対応に心がけている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  ○ ご家族とよく話し合い信頼関係は出来ていると思うがご家族の思いは図れ知れない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない  ○ 馴染みの方の長時間滞在もある

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	○ 自治会にも加入しており、地元の方からも声がかかる。野菜作りのアドバイスも頂いている。
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	○ 休憩中に大正琴の練習をしたり、ご入居者の中に入って楽しんだりしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	○ ご入居者に質問すると全員が満足している・住み易いとの回答だった。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	○ 来訪時は和やかに過されるので、概ね満足していらっしゃるとは思う。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\*広い畑があり、季節に応じた活躍の場がある。又、野菜の処理をしながら色々な話に花が咲く。新鮮な野菜を食材に使用して成長期・収穫期の話題が広がる。

\*趣味を広めている

元大正琴の師匠さんのご入居で、大正琴のブームとなっている。「もう弾けない」とおっしゃっていた方が、毎日の歌の時間に色々な曲を弾かれるようになり、他の方が歌い、大変賑やかな時間がある。スタッフも大正琴を購入してアドバイスを受け、活動意欲の向上にも繋がっている。ご入居者・スタッフ共々発表の機会を目標に掲げ、他の方は大きな声で歌い一体となれる喜びの時間がある。

\*山に囲まれた田舎ではあるが、建物周囲が広く、のんびりできる。ご入居者やご家族は4方の景色が違い四季を感じると話される。俳句の趣味をお持ちの方が、朝靄や夕焼け・虹等々数多くの俳句を作られて、スタッフが詩集にした。ご入居当時の思いが伝わってくるものである。

\*楽しみを求めて

春の運動会をしました。

中庭で夕食会をしました・カラオケや手踊りも楽しかった。

案山子を制作中です。おたのしみに！

悠という愛犬を飼っています。ご入居者と一緒に散歩もします。玄関でお待ちしています。